

宮私幼だより

No. 137
 社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
 〒980-0803
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12
 佐正第二ビル 6F
 TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
 編集・発行人
 理事長 村山 十五



- 関係機関団体
- 10月3日 宮私幼教育振興大会・第41回宮私幼PTA研修大会(仙台市民会館)
 - 10月12日 第37回宮私幼PTA親善バレーボール大会(宮城県総合体育館)
 - 10月13日～16日 ねりんぴっく宮城・仙台2012
 - 10月22日 第35回宮城県私学振興大会(中高連・電力ホール)
 - 10月31日～11月4日 宮城県造形教育作品展(県美術館)
 - 11月7日 学ぶ土台づくり推進連絡会議(仙台市民会館)
 - 11月16日 仙私幼設置者・園長研修会(旭ヶ丘市民センター)
 - 12月10日 私学審議会(県庁)
 - 1月7日 仙私幼教員研修大会(仙台市民会館)
 - 2月7日 私学審議会(自治会館)
 - 2月18日 宮城県次世代育成支援対策協議会(県庁)
- 全日私幼連
- 10月2日 団体会長会議・理事会合同会議(東京)
 - 10月3日 第5回都道府県政策担当者会議(東京)
 - 10月19日～20日 第27回東北地区私幼教員研修大会・弘前大会
 - 10月22日～23日 第28回設置者・園長全国研修大会(千葉県)
- (2頁に続く)

事務局だより



こどもが
 まんなか
 PROJECT

巻頭言

宮私幼理事長 村山 十五



卒園式、入園式の季節になりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成24年度も当連合会の会務運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。平成25年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年末の国政選挙では、自民党が圧勝し、新政権が誕生しました。震災復興、補正予算、そして次年度予算に計り知れない影響があるものと思われまます。私立幼稚園関係の来年度の補助金も文科省の概算要求の段階ではありますが、運営費補助金や就園奨励費補助金が見直され、特に、就園奨励費の第4階層が12,600円増の62,200円となりました。これは全国の私立幼稚園が総力をあげて要望した結果であり、組織力そのものだと思っております。しかしながら、全国には、会費も納めないで、その恩恵にあずかっている幼稚園もあります。まことに残念なことであります。

さて、今年の4月1日から当連合会も一般社団法人に衣替えする方向で準備を進めております。財務諸表等、一部内容の見直しもありますが、大

きくは預金利息に源泉税が課せられることであります。その分運用益が少なくなるので、退職手当資金給付事業が厳しくなります。県当局にも補助金の増額を要望しておりますが、加盟園の掛金の見直しが前提となっており、今年度の喫緊の課題でもあります。

待機児童の解消策として成立した「子ども子育て3法」の運用や枠組みもこれから具体的に検討に入ります。市境に位置する私立幼稚園の施設型給付が厳しい状況にあります。同時進行で、幼児教育の無償化も検討されております。自民党のJファイルにも記載されており、全日私幼連も最重要課題と位置づけ、関係各位に働きかけを行っております。鳥取県では、知事と議会が一体となり、文科大臣に要望書を提出しており、全国的な広がり期待しております。制度的には、高校の無償化がベースになるものと思われまます。

いずれにしましても、ここ数年が私立幼稚園にとって大事な年になりますのでご理解とご協力をお願い申し上げあいさつと致します。

以上2月28日まで

○慶弔
10月13日 三浦 貞子氏 逝去（全日私幼連元会長・青森県私立幼稚園連合会前会長）

2月27日 理事会・広報委員会
研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ会

2月22日 常任理事会

2月18日 総務給付委員会

1月18日 研究委員会・学ぶ土台づくり懇話会

1月16日 総務給付委員会

1月11日 経営委員会

1月10日 特別委員会（記念誌制作）

1月8日 知事陳情

12月7日 理事会・総務給付委員会・広報委員会

12月4日 研究委員会・第2回地区研修担当者連絡会

11月26日 広報委員会・特別委員会（記念誌制作）

11月20日 大分県私立幼稚園連合会被災園視察

11月14日 研究委員会

11月6日 総務給付委員会・特別委員会（記念誌制作）

10月16日 研究委員会

10月10日 総務給付委員会

○宮私幼のあゆみ

11月12日 東北地区会 教育研究・経営研究・政策総務担当
者連絡協議会（山形県）

12月5日 第27回全日私幼PTA連合会全国大会（東京）

1月24日 25日 全国研究研修担当者会議（京都）

1月30日 臨時理事会（東京）

2月14日 平成24年度第2回東北地区会・団体長会議及
び事務局長会議（山形県）

（1頁の続き）

平成24年度臨時総会

平成24年9月25日(火) 午後2:00～ 東京エレクトロンホール宮城 601会議室

去る9月25日平成24年度臨時総会が開催されました。佐藤宏郎副理事長の開会挨拶、村山理事長の挨拶の中で、平成25年4月1日から一般社団法人に移行するためには、9月末までには総会を終了し書類を作成しなければならず急遽臨時総会を開かなければならなくなった次第ですと説明がなされた。

また、文科省から平成27年4月1日から認定こども園を希望する園は102条園、宗教法人立の園もできるようになったことの報告がありました。

その後議長選出、気仙沼・登米地区からさくら幼稚園の片岡大助先生が選出されました。第22条の定足数の確認に移り正会員170名のうち、出席者74名、委任状提出者63名、計137名で、1/2以上で本総会が成立したことを確認し、議事録署名人は、愛耕幼稚園小山郁子先生、聖和幼稚園の荒井早苗先生が指名されました。

議事では第1号議案一般社団法人移行の『基本方針』(案)について、第2号議案一般社団法人移行に伴う「定款の変更」(案)については、現行と



改正案の比較表をもとに、佐藤宏郎副理事長から比較しながら説明があり、その後質疑にはいりました。

- 質疑1. 社団法人から、一般社団法人に移行したのは、どうしてか?
- 質疑2. 社団法人から、一般社団法人にしたときのメリットとデメリットは?
- 質疑3. 第7条の会費については今までどうりで良いのか?
- 質疑4. 認定こども園、私立幼稚園としてやっていく認定こども園は、はいるのかどうか?

提案 総会は1回でも良いという話だが予算総会も是非開いて欲しいという意見があり、拍手多数で定款の中に入れることに決まりました。その他審議事項について拍手多数で原案のとおり承認されました。

その後、佐藤副理事長の閉会の言葉で臨時総会の一切が終了しました。



Close・up 理事会

平成24年度宮私幼理事会の概要

【第4回理事会】

日時 平成24年12月7日(金) 午後1時～
場所 宮私幼会議室
議事

- (1) 「白書」「東日本大震災記録集」及び「40周年記念誌」の進捗状況について
- (2) 一般社団法人移行の進捗状況について
- (3) 第2回通常総会開催の日程について
 - ① 平成25年度予算編成について
(事業計画及び予算要求)
 - ② 平成24年度事業報告について
(事業実績報告及び会議開催報告)
- (4) 平成24年度宮私幼教育研究発表大会について

- (5) 就職内定学生の「研修期間における傷害保険」について

【第5回理事会】

日時 平成25年2月22日(金) 午後2時～
場所 宮私幼会議室
議事

- (1) 平成24年度第2回通常総会の議案書について
 - 第1号議案「平成24年度補正予算(案)について」
 - 第2号議案「退職手当資金給付事業運営規則の一部改正(案)について」
 - 第3号議案「平成25年度事業計画(案)について」
 - 第4号議案「平成25年度予算(案)について」
 - 第5号議案「幼児教育無償化に係る署名等について」

平成24年度宮城県私立幼稚園教育振興大会 第41回宮私幼PTA研修大会

大会スローガン「高めよう絆を!」～子育ては、親と地域と幼稚園～

平成24年10月3日(水) 10:30～14:30 仙台市民会館 大ホール

第1部 振興大会

宮私幼村山十五理事長挨拶

震災後、教職員、子どもたちの情緒が不安定で私たちも支援するが、保護者の皆さんも子どもたちが元気に過ごせるよう配慮をお願いします。国は子ども子育て支援策として、平成27年から幼稚園の保育所化を目指した新たな認定こども園を立ち上げます。様々な議論があるが、親と子の接触時間が短くなる制度自体が心配されます。ここ数年、私立幼稚園も厳しい状況にあるが、新しい政策に惑わされることなく、親と子の関係を大事にする私立幼稚園の振興にご理解とご協力をお願いします。宮城県は財政が大変厳しい中、本年度の私立幼稚園への運営費補助金を増額していただき感謝いたしておりますが、来年度もさらなる増額と就園奨励費を活用した保護者の負担軽減にもご支援いただきたいと思います。



宮私幼PTA連合会会長渥美巖氏挨拶

お忙しい中、村井嘉浩知事、県議会の中村功議長、県議会の先生方、私立幼稚園に携わる方々にご出席賜り感謝申し上げます。昨年3月の東日本大震災、県内では死者1万人以上、全壊等家屋の被害が8万戸以上、被害額が9兆1千億円、私立幼稚園の中でも3名の先生方が亡くなり、62名の園児が尊い命を亡くしています。亡くなった方々に心からご冥福をお祈りいたします。復興のために10年位か



かるが、村井知事始め県議会には、一日も早い故郷再生の為に頑張ってくださいと思います。宮私幼PTA連合会総会で掲げられた3つの目標の内の3番目は保護者の負担軽減で、これからの日本、宮城県を背負っていく子供たちのために保護者負担軽減が不可欠です。県の厳しい財政の中で増額されたものの、全国的にはまだ下位で、より上位を目指していただきたい。これから知事、議長からお話しを頂くが、家庭、地域、幼稚園が一体となって21世紀の主役となる子供たちを守り育てていかなければならないと思います。

村井嘉浩宮城県知事祝辞

幼稚園の補助金等については、県会議員当時増やせと叫んでいました。今は攻められる立場だが、厳しい財政の中で頑張っていきたいと考えております(場内拍手)。皆様の幼児教育に対する熱意とご理解に敬意を表します。東日本大震災から1年半が経過し、復旧復興は着実に進んでおります。今後10年間の復興の道筋を示して教育環境の確保を緊急重点事項として被災地の修学支援などに取り組んでいます。具体的には被災された園児、保護者などに対する心のケアのカウンセラー派遣や家庭の被害状況に応じた保育料軽減の支援を実施しております。これから復旧が本格化する幼稚園もあり、様々な支援をしていきます。復興に際し、持続可能な地域社会を作り上げるのは、困難を乗り越えて未来を開く子供たちの健やかな成長であります。幸い宮私幼、宮私幼PTAが中心となって幼児教育の振興にご尽力を頂き、家庭と幼稚園の緊密な協力体制が築かれており大変心強く思います。今後とも幼児教育の充実に努めて参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。



中村功宮城県議会議長祝辞

皆さんが知事の挨拶の余韻に酔っているときに私がお話することになりました(笑)。以下、知事同様力強い支援のご挨拶を頂きました。

大会宣言

私たち、宮城県私立幼稚園連合会と同PTA連合会は、東日本大震災で被災した方々の復興を願いつつ、子どもたちのすこやかな成長・発達・安全のため、親と地域と幼稚園の絆を高め、それぞれの役割を自覚し、また研修に励み、そのつとめを果たします。

そのためには、より安心して子育てができる環境が必要であり、次のことを宣言します。

一、東日本大震災により被災した幼稚園及び園児・保護者への継続的な支援や原発による放射能被害への早急な解決が望まれます。

二、より豊かで充実した幼児教育振興のためには、教育に専心できる経営上の安定が必要です。そのためには、私立幼稚園への公的助成、特に幼児の就園に伴う保護者の経済的負担を軽減するために、県の運営費助成増額、並びに市町村の就園奨励費の拡充をより一層推進する必要があります。

これら、幼児教育に必要な予算的確保に措置されることを関係機関に強く求めることを宣言します。

平成二十四年十月三日

宮城県私立幼稚園教育振興大会



た、世界のほとんどの国の子どもが7割以上自分に自信があるのに、日本では50パーセントで、世界で最低のランクになっています。学校や家庭における過保護、期待を掛けすぎて子どもを縮こませ、そして、誰かに着いていけば楽だと思っているのが原因です。昨今、親の「五無」、つまり無気力、無関心、無感動、無責任、無作法の姿が見られます。

『望遠の目』とは、即ち子供たちが将来遭遇する高齢化、国際化、情報化、価値観の多様化の4つの波に対して、どのような力を持たなければならないかと言うことです。そのために、「知」「徳」「体」のバランスの取れた子どもを育て、変化の激しい世界を逞しく生きて欲しいと国は願っています。子どもの「やる気」を出させるのは、少しずつ自信を持たせる、言葉の数を増やす、友の大切さを認識する、計画を実行する。親のスキルアップとして、挨拶、返事、感謝、謙虚、整頓など「ティーチング」(親の教え込み)と「コーチング」(親の引き出し・サポート)をバランスよく教える。また、幼児期に自然体験、社会体験、集団体験、忍耐体験(体力的・我慢)をさせましょう。「子育て」が「枯育て」にならないように、つまり、親がやるべき事を学校に任せ、楽なところだけやるなど、子育ての手抜きは後で返ってきます。何より安らぎのある家庭は子どもにとって安心感を与えます。本来親が子を思い子が親を思う気持ちが自然で、親と子の関係は切っても切れないものです。

子育てに悩んで閉鎖的になると心の病になるので、悩みを打ち明けられる人をたくさん見つけてください。多チャンネル時代だから「心のチャンネル」を回し、「心の消しゴム」を上手に使いましょう。そして、私の話がお母さんを通して、幼稚園が楽しくて、先生に叱られても明日又登園したいと言う子どもの生きる喜びに繋がれば最高です。これからも、幼稚園の先生とお母さんが車の両輪となって子育てをして下さい。

第2部 研修大会

講演 「子育ては、拡大の目と望遠の目で」

講師 平山 敏正先生

(仙台市教育センター授業アドバイザー、元仙台市立木町通小学校校長)

第2部では、長年教育現場に携わってこられた平山敏正先生に、人との出会いが人生の宝そのものと言う信念のもと具体的事例を挙げてご講演をいただきました。

ある幼稚園の入園式に招待された時、新入園児はじっとしていなかったのが、卒園式では1時間半、無駄話は全く見られず、全ての子供たちがきちんと座っていました。このような子供たちを見事に成長させた幼稚園の先生方の教育力に心から敬服しました。子どもにとって最初の出会いは両親、特に母親、そして、幼稚園の先生方との出会いが子どもに強い影響を与えることとなります。

『拡大の目』、即ち子育ての現状をどう見るかでは、今、気になる子供たちの姿として、夜更かし等生活習慣が乱れ、学習に集中しないことが挙げられます。早寝早起き朝ご飯が生活の基本だが、偏食、欠食、個食、孤食(一人で食事をする)が増えています。親が子に対する最大の愛情は衣食住を提供することで、中でも食事を与えることが大事です。今心優しい子供たちが増えている反面、人に嫌われないように気を遣うため対人関係にも疲れています。ま

幼な子ととまに

幼稚園訪問記・石巻みづほ幼稚園・石巻みづほ第二幼稚園



〒986-0861 石巻市蛇田字新前沼166-1

園児数 石巻みづほ幼稚園 220名 8クラス

(3歳児47名、4歳児86名、5歳児87名)

園児数 石巻みづほ第二幼稚園 78名 2クラス

(3歳児11名、4歳児37名、5歳児30名)

平成25年 3月5日現在

12月17日、東日本大震災で津波被害を受け園舎が全壊し、園バスも使用不可の被害を受けられた、石巻みづほ第二幼稚園を訪問しました。旧園舎はすでに解体され現在は石巻みづほ幼稚園の敷地に仮設園舎を建て(2教室3年リース)運営しているということでした。インタビュー



園長 津田廣明先生

には両園園長である津田廣明先生にお答えいただきました。

石巻みづほ第二幼稚園に関しては、2年以内に別敷地での再開を目指しているものの、旧石巻みづほ第二幼稚園の敷地の買い上げが坪あたり7~8万円であり、石巻市で考えているイオン近くの土地は坪18万円前後ということで非常に厳しい現状です。

石巻みづほ幼稚園・石巻みづほ第二幼稚園では

- 保育時間
夏・冬共9時半から13時半まで。
- 延長保育
月から金まで。保育時間は夕方17時半まで。
- 給食 月・金曜日
- 特色教育
あらゆる機会を通し表現力の向上を図る
・体力作り(講師を幼児体育研究所から迎えて)
・お年寄りとの交流によって感謝と思いやりの心を育てる
- 未就園児教室
現在休み中

石巻みづほ第二幼稚園再建の際には認定こども園とすることも視野に入れて検討しているところですが、政権が交代し今後どのような方針が出されるかを見極める必要もあるとお考えとのこと。予算の一本化は歓迎したいが、給食施設を設置しなければならない、栄養士を採用しなければならない等、費用の面で負担が大きいことは納得できないところだと話して下さいました。

震災後多くの方々から支援をいただいたことに大変ありがたかったと感謝しておられました。昨年夏、長野県松本市の塗装会社「シンカイ」さんのご厚意によりボランティアの協力を得て、ブラックライトスクリーンが石巻みづほ幼稚園お遊戯室に設置され、誕生会やお遊戯会の時などに見ていたとのこと。書かれていたのは地球に向かって泳ぐイルカ(ステージ壁面)黄道十二星座(天井)でした。しかし、防衛省からの補助で各保育室とホールのアコン工事をした事により、天井の黄道十二星座は残念ながら見られなくなってしまったそうです。唯一残っていた地球に向かって泳ぐイルカを見せていただきましたが、とても神秘的で美しいものでした。

一昨年の12月には、サンタクロースがフィンランドから来て子供たちは大喜びだったとのこと。また今年のクリスマスには大分県日田市からお菓子のプレゼントが全園児に届く予定で、大変ありがたいことと思っていると津田園長は話してくださいました。震災では様々な方から支援をいただき、見守られていると考えることは気持ちの面で力を得ることが大きく、これらどこかで何かあった場合にはこちらから何らかの形で支援をするという姿勢を持ちたいと話してくださいました。

当日は北風の冷たい日でしたが外の遊具で遊んでいる子もおり元気いっぱいの子どもたちでした。石巻みづほ第二幼稚園仮設園舎の5歳児は鼓笛の練習を頑張っていました。とても北風が身にしみるといことで仮設の廊下も取り付けられており、寒さの厳しい時期は大変だろうなと感じました。また、ホールでは体育教室も行われていました。おゆうぎ会は駐車場や会場の広さの関係でクラスごとの発表という形で時間を決めて実施されており、クラスによっては欠席者(かぜなどのため)が多く、これからというクラスもありました。

宮私幼塩釜地区会移動研修会

塩釜・多賀城地区長 根来 興宣（多賀城高崎幼稚園） 副地区長 江湖 貴恵（塩釜ひまわり幼稚園）

去る平成24年12月19日(水)宮私幼塩釜地区会移動研修会が行われました。

今回は、学法幼稚園として全国で最も早く保育園を併設された太白区の茂庭幼稚園・茂庭ピッパラ保育園の多大なご理解ご協力の下、施設見学や意見交換会など研修させていただきました。研修内容をまとめましたのでご報告させていただきます。



はじめに、茂庭幼稚園の園長先生、教頭先生、茂庭ピッパラ保育園の園長先生から保育園を併設された経緯や現在の保育や運営形態などをお話し頂きました。その難しさやご苦労された事などをざっくばらんに話し下さり幼保一体化の知識が深まりました。（当初は幼稚園教育と保育園保育のそれぞれの良さを融合して行ってきたそうですが、県や仙台市の指導やそれぞれの保護者の意見などにより、現在は全く別々の運営経営になっているとの事でした）

保育園の保育の様子・幼稚園の保育の様子・調理室など案内して頂きながら園内見学をさせていただきました。幼稚園の年長児が茶道をおこなっており、「卒園時に保護者にお茶をたて、その成長した姿に感激なされる」とのエピソードがありました。



懇談会では既に認定こども園になっている利府おおぞら幼稚園の軍司先生、利府第二おおぞら幼稚園の高橋先生からも経緯や現況をお話し頂きました。

今後、学校法人が認定こども園へ移行していくのは必至で、計画や準備を行っていく事が大切で

- ・運営の一本化（わかりやすく、やりやすく）
- ・三歳以上児は幼稚園へ（保育園は三歳未満児のみ）を訴えていく必要がある との見解になりました。



宮城県知事・県議会議長へ陳情

去る、1月8日に宮私幼PTA連合会役員、宮私幼振興対策協議会役員、宮私幼役員による「平成25年度私立幼稚園に対する補助金等に関する陳情書」を携えて村井嘉浩知事に陳情に行ってきました。



村井知事さんよろしくお願ひします

要旨は例年の通りですが、

1. 各私立幼稚園に対する運営費補助金は、今後とも国が示す額まで増額していただきたい。
2. 宮城県私立幼稚園連合会の退職手当資金給付事業に係る補助金を、1000分の36まで引き上げていた



村井知事さんと記念写真

編集後記

平成24年12月に民主党から自民党へ政権が代わり、私立幼稚園を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。すでに各園に配布された全日私幼「情報特急便」等に掲載されていますが、平成25年度私立幼稚園関係政府予算で就園奨励費第4階層の大幅アップや、第3子以降が所得制限無しで保育料無償の要求が出されています。

一方、当宮私幼においても平成24年度は、理事の

だきたい。

3. 放射線量の低減化事業に対する補助制度の創設をお願いしたい。
の要望を行いました。

陳情には、宮私幼PTA会長・宮城県議会議員渥美巖氏、宮城県議会議員寺澤正志氏、佐々木幸士氏にも同行していただきました。

お母さん代表として赤平和美さん、三木道代さん、相田和枝さん、佐々木真理子さん、子ども達は折立幼稚園の三木胤実ちゃん、相田彩花ちゃん、くり幼稚園の佐々木碧花ちゃんの力強い応援を得ての和やかな陳情となりました。

陳情の内容に対して知事は、厳しい県の財政下で、1については、財源確保が難しい中努力したい。2については、幼稚園側の自助努力によっては、県側も補助金率をあげるとの返答をいただきました。3については、県の財政が厳しい中、できるかぎり善処したいとのご返答をいただきました。



中村県議会議長さんにも陳情

【表紙によせて】

石巻みづほ第二幼稚園での保育の様子

交代や社団法人から一般社団法人への移行と事務局にとっては何かと大変だったのではないかと考えております。また、「白書」「東日本大震災記録集」及び「宮私幼40周年記念誌」発行に向けて、各園のご協力を得ながら取り組んでおります。平成25年度中には皆様のお手元へとお届けできるようにと考えております。